

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	4	中芸	高等学校	課程	多(夜)
------	---	----	------	----	------

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人一人の多様な進路実現を図る。 県東部の定時制高校として、様々なニーズのある生徒を支援し、きめ細かな学習活動や探究活動、他の課程との連携、キャリア教育の充実を図ることで社会性を育み、地域社会に貢献できる人材を育成する。
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○高等学校を卒業するという強い意志を持って努力する生徒を募集します。 ○物事を主体的に考え、進路目標に向かって粘り強く取り組む生徒を募集します。 ○ルールやマナーを守り、何事も責任感と協調性を持って取り組む生徒を募集します。 ○友達や周囲への思いやりの心を持ち、相手の立場に立って行動する生徒を募集します。 ○仕事と学業を両立させ、学校生活を積極的に送る生徒を募集します。 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○基本的な生活習慣の確立を目指し、責任感や自立心等の社会で必要な力を育成します。 ○コミュニケーション能力等の社会性や表現力等を身に付け、他者を尊重して協働する力や、社会生活や地域に意欲的に関わる姿勢を育成します。 ○様々な活動や学校行事等を通して、積極的に行動する力や自己肯定感を高め、自分を大切にする姿勢、周囲の人々に対する思いやりの心を育成します。 ○夜間部・屋間部の生徒同士や聴講生、県立山田特別支援学校田野分校との交流を図り、多様な個性を認め合う共生社会意識を育成します。		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、主体的に学ぶ力や課題を解決する力、豊かな人間性・社会性の育成に取り組めます。 ○授業や生活体験発表会、総合発表会等を通して、思考力、判断力、表現力等の育成に取り組めます。 ○生徒一人一人の興味関心、進路希望に応えることができるよう、少人数授業によるきめ細やかな指導を行います。 ○保護者等や地域との連携、聴講生制度、就労への支援等を通して、学校と地域の活性化、地域の「学び」の拠点となる学校づくりを目指し、地域社会に貢献できる人材の育成に取り組めます。 ○OSC、SSW、各専門機関等との連携により、生徒の困り感・悩み・相談等に対処できる支援体制を構築し、安心して学べる環境づくりに取り組めます。

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	・評価指標の数値は横ばい傾向だが、学校評価アンケートの結果では良い結果も出ている。 ・成績を大きく伸ばす生徒も出てきており、一定の成果も見られる。
【社会性の育成】 評価 【 B 】	・すべての評価指標が上昇しているのは良い傾向といえる。 ・「自分という存在を大切に思える」という高知県オリジナルアンケートの質問項目の肯定的回答が50%を超えていない。すべての項目が50%を超えるべきである。
【チーム学校】 評価 【 A 】	・教職員と生徒の関係や生徒同士の関係も良好で学校としてしっかり取り組んでいる。 ・聴講生の満足度も88%と高いのも良い。 ・不祥事が発生していないことや働き方改革にも取り組んでいる。

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	○「めあて」「思考・判断・表現」「振り返り」を設定した授業実践 ○生徒がICTを活用した授業実践 ○進路指導担当による「やります宣言」(目標設定、中間振り返り、年度末自己評価)	B ①第1回確認テスト結果 国73.3 数54.4 英34.9 ②夜間部アンケート「授業はよく理解できる」肯定的回答 4月 73.3% 9月 73.4% ③オリジナルアンケート「将来のために勉強を頑張っている」肯定的回答58.3% ④「やります宣言」目標達成度中間自己評価65.7%	○授業改善、ICT機器活用の推進 ○基礎学力定着に向けた授業の一層の工夫 ○進路意識高揚のための情報提供を積極的に行う。	B 成績を大きく伸ばす生徒もいたが、基礎学力定着に困難を感じる生徒も一定数いる。 ①第3回結果 国92.5 数61.3 英44.5(3教科とも上昇) ②1月結果 57.2%(下降) ③肯定的回答60%(横ばい) ④最終評価:64.1%(横ばい)	①確認テストのやり方の改善 ②授業時間の確保 ③④地域活動や進路に関わる活動への参加を促す。
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○観月会(国語科)、ものづくり教室(生徒支援部)などの聴講生交流行事 ○新入生歓迎行事、文化祭、卒業生を送る会などに向けての活動 ○進路指導担当による、なんこく若者サポートステーションと連携した出張セミナー	B ①「自分という存在を大切に思える」(県オリ) 41.6% ②「相手の気持ちを考え、自分の気持ちをわかりやすく伝える」(夜間部アン) 66.6% ③「高校入学以降の学習によって環境や社会の問題への意識や行動に変化があった」(県オリ) 49.4%	○進路関係行事や活動の計画的かつ円滑な実施 ○文化祭、生徒会活動を通じた生徒間交流の促進	A 行事での交流や授業を通して周りへの気遣いなど意識の変化が見られた。 ①肯定的回答:46.7%(上昇) ②肯定的回答:71.4%(上昇) ③肯定的回答:66.7%(上昇)	①地域活動や進路に関わる活動への参加を促す ②生徒会活動の活性化 ③授業や行事を通じて社会とのかかわりを意識させる
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○政治的教養を育む教育(6月) …模擬選挙等 ○総合発表会(2月) …地域課題探究	B ①「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」(県オリ) 54.1% ②「新聞やニュースを見る」(夜間部アンケート) 40.0%	○社会の出来事への関心を高める授業の工夫 ○総合発表会に向けて継続的な指導 ○新聞を使った授業(主に地歴公民科)・LH等の活動	B 地域・社会への関わりが弱い部分がある。授業や行事などを通じ、ニュース等への関心を高めることができた。 ①肯定的回答:53.3%(横ばい) ②肯定的回答:57.2%(上昇)	①地域活動や進路に関わる活動への参加を促す ②ニュースに触れる機会の設定(授業・特別活動など)
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○ONIE(8月) ○校内生活体験発表会(9月) ○総合発表会(2月)	B 教科横断的教育活動への参加・出席人数割合 ①NIE 参加率 87.5% ②校内生活体験発表会 参加率93.8%	○新聞を使った授業(主に地歴公民科)・LH等の活動 ○全教員による総合発表会の指導	B ①～③ともに全教員で対応にあたることで、大半の生徒はしっかり取り組むことができた。 ①、②は実施済み ③総合発表会・発表 86.7%	①②③ 単発の行事に終わることなく、取組内容を継続性を持たせたものにしていく

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○地域の学びの拠点となる学校づくりを目指し、聴講生制度を推進 ○三修制を活用した、主体的に学ぶ力の育成	○総務係による聴講生募集(新聞折込チラシ、近隣自治体の広報誌への募集掲載依頼:3学期) ○公開授業アンケートの実施(年2回) ○三修制における添削指導の充実による、レポートの期限内提出の徹底 ○学校運営協議会の実施	B ○聴講生制度の推進 ①聴講生数19名 ②「聴講生授業満足度」 88.9% ○三修制 ③レポートの期限内提出は継続中 ○学校運営協議会 ④7月実施	○管理職による聴講生受講講座の巡回および授業担当者との情報交換 ○三修制の対象生徒へのきめ細やかな声かけと指導の継続	A 聴講生は、新規の受講者は3名で大半が継続受講となっている。 ①聴講生数:19名 ②聴講生満足度:88% ③期限内提出100% ④第2回を2月25日実施	①②聴講生だけでなく、中芸地域にも学校の取組をPRする。 ③④具体的な取組内容を再検討していく。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○倫理観堅持のための具体的目標(指標) ①不注意事案発生件数 R7目標0件 ②校内研修の実施回数 R6(15回)→R7目標5回以上 ③不祥事防止委員会の実施回数 R6(7回)→R7目標3回以上	A ○不祥事に関する通知文書の周知徹底(随時) ○個人情報保護に関するチェックシート等の実施(年2回以上) ○メンタルヘルスサポートのための教頭面談(年2回以上)	○不祥事防止研修の計画的な実施 ○適宜、情報共有や注意喚起	A 不祥事事案は発生していない。 ①不祥事事案 0件 ②校内研修 年間 5回 ③不祥事防止委員会 8回	①不祥事防止の意識を維持するため、情報共有・注意喚起を継続する。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○風通しの良い、開かれた職場環境づくり ○ICT機器を活用した業務の効率化	①業務外勤務時間45時間以上の教員数 R6(0名)→R7目標0名 ②ICT機器を活用した職員会議資料の共有によるペーパーレス化の継続と推進	A ○教頭による個別の業務負担状況の確認(年2回以上) ○職員会議のパソコン活用、文書のメール配付等による、印刷時間の短縮とペーパーレス化の継続と推進	○管理職による業務の負担状況の確認 ○継続的な職場環境の整備	A 全員が行事等に対応する姿勢が見られ、協力体制がとれていた。 ①1月末時点 0名 ②ペーパーレス化の継続中 ③適宜、整備 ④年度末面談 1月実施	①分掌の業務内容の割り振りを見直すことや業務の進捗管理を随時行う。